

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401763		
法人名	医療法人社団向仁会		
事業所名	医療法人社団向仁会グループホームよるこびの家日吉(松ユニット)		
所在地	北海道函館市日吉町3丁目20番25号		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果市町村受理日	平成23年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自由・笑顔・安心」と親しみがあり誰でもわかりやすい理念を掲げ、閑静な住宅街に位置しており近隣住民との関わりも持てる地域密着型のグループホームとなっております。又、委員会にも力を入れており、身体拘束廃止委員会、事故防止委員会をはじめ様々な委員会活動を行っている事でサービスの向上に取り組んでおります。当ホーム敷地内に畑もある事から夏に農作物の栽培も行っております。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171401763&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171401763&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年2月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

**<自立へ向けた支援>**  
職員間で話し合い共有の年間目標を立て、一人ひとりの力や生活習慣を活かして、着替えや入浴洗身、トイレでの排泄や排泄の自立に向けて、時間がかかっても見守ったり、一緒になって介助する等支援している。また、身体機能の維持・向上や潜在能力を引き出す為に、敷地内の畑で職員と一緒に野菜(ジャガイモ、トマト、人参等)の栽培や収穫で食事を楽しみ、本人から学んだり支えあう関係を築いている。

**<家族との関係を断ち切らない為の支援や普段行かない場所への訪問支援>**  
家族等の参加しやすい土・日曜日に、家族と一緒に食事に出かける機会を設けたり、来訪時には日常の生活の様子や健康状態、意見や要望等話し合いケアサービスに活かしている。また、ホテルでのバイキング等の外食や季節毎の花見や紅葉見物など支援している。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由・笑顔・安心」の3つの理念を掲げ、入居者様、御家族様、地域住民、職員全てに共有出来る親しみのある理念を実践している。	事業所独自の理念をつくりあげ、スタッフ会議で話し合い、理念を共有している。また、理念達成の為にユニット毎の重点目標を掲げ、その達成に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に入居者様も毎回(数名)参加して頂き、地域の住民とのコミュニケーションの場として提供している。	地域の小学校や中学校の体験学習の受け入れや町内会の慰安会や夏祭り参加で地域の中でその人らしく暮らしていけるように地元の人々との交流や認知症の理解を深める取り組みをしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を主とし、外部での勉強会などを活かして町内会や近隣の住民より相談などがあつた際は都度支援している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度を目安とし年6回実施している。会議には町会、包括職員、保健所職員、入居者様御家族など外部の方も参加して頂いており様々なテーマをもとに意見交換を行っている。	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、身体拘束廃止や虐待防止、他地域のグループホーム火災の事例を挙げて火災時の避難誘導や関係機関への通報等具体的に話し合っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は現在運営推進会議が主だが市町村主催の研修や講演会への参加を通じ協力関係を築いている。	市や包括支援センター主催の研修会参加や運営推進会議、日常業務を通じて情報交換や助言を得ながら連携を深めるように努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で「身体拘束廃止委員会」を設置しており、職員一人ひとりが身体拘束の定義を理解し常日頃から身体拘束の無いケアに努めている。	身体拘束廃止委員会で管理者及び職員の認識の共有が行われている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。その他に事故防止対策委員会、計画作成対策会議を設けてケアサービスの質の向上に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営推進会議にて「身体拘束・虐待」をテーマとして取り上げ管理者・職員に意識付けを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については以前、運営推進会議にて2度取り上げている。現在、活用する機会がないが、今後必要となる場合に備え新人スタッフも含め再度このテーマを取り入れ勉強していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約(入退居)に関しては現在管理者が全て担っている。御家族様が安心して契約出来るよう十分な説明を行い理解・納得を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置し当ホームに関する意見や苦情を集めそれらをスタッフ会議や運営推進会議を通して反映している。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付窓口を掲示している。また、来訪時や家族と一緒にの食事会等で意見や苦情、要望等話し合う機会を設けている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にスタッフ会議を開催し職員からの意見を汲み取っている。そこでの希望や意見など法人の本部へ伝え出来る限り反映に努めている。	毎月開催するスタッフ会議で、職員の意見や要望、提案を運営に反映する機会を設けている。また、毎年個人面談して意見や話し合う場を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常日頃から勤務状況には目を配り把握している。又、そこから業務に対する実績により評価をする事で昇給や昇格へ反映している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修は多々あるものの業務時間内での研修が数少なく時間外での研修となり参加が難しくまだまだ満足度のいく取り組みができていない状態にある。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道GH協議会や南北海道GH協議会・同協議会ブロック会議などを通し様々な勉強会に参加し、特にブロック会議では近隣のGHとの交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込みを頂いた時点で本人様にお会いし話しを聞き、入居にあたり不安が少しでも軽減出来るようお手伝いさせて頂いている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至る前に必ずご本人様はもちろん御家族様からの要望を訪問にて直接伺い安心して入居ご利用して頂ける様努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームへの入居申込みがあった時点で、その方の簡易な情報を聞き出すことでGH利用に適するのかが否か判定会議を通し見極め情報提供を行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ一人ひとりが入居者様を「一人の人間として敬う」を念頭に置き人生の大先輩として教えられること、気付かさせられる事を通じお互い支え合って生活している環境を築いている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護計画を主に御家族様の思いや意見を聞き、職員 本人 御家族様が関係を共有することで互いに支え合っている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際に最も重視している部分でもあり、環境変化に伴うダメージを出来るだけ軽減出来るよう努めている。今まで慣れ親しんだ物・場所・外部との関わりなど途切れないよう支援している。	馴染みの美容室訪問や買い物での商店の利用で関係が途切れないように支援している。また、地域の夏祭りや町内の慰安会参加等を通じて地元の人々との交流に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	適時に職員が入居者様同士の間に入り入居者様同士の趣味や話題を見出し些細な事でも関わりを持って頂けるよう支援する事で孤立する事無く支えあった生活が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居(契約終了)が決まった時点でその後の必要とされる支援を見出し他施設や病院などサービスに対するフォローを必要時には行っている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや、家族の思いを大切にしていケアプランを作成、ケアカンファレンス等により検討するとともに、日常生活での会話から職員全員が意向を聞き取り、日々変わる思いや希望を共有することで本人本位のケアを行っている。	フェイスシートや一部センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、カンファレンスやスタッフ会議を通じて、職員の共有が行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人や御家族様から聞き取りを行い作成したフェイスシートを参考に、ご本人にとって馴染みの環境の継続に努めると共にこれまでのサービス利用の経過等の情報を把握、職員全員で共有できるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者様一人ひとりの日々の暮らし、体調の変化や精神状態、又ご本人の持ちうる力の把握に努め、その人がその人らしく生活できるようにサポートするため、職員全員が日々の職務の中で努力している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、主治医、医療連携看護師、施設職員等必要な関係者からモニタリングを実施、介護支援専門員が把握し、それぞれの意見を検討、出来る限り、現状に即した介護記録を作成している。	課題とケアのあり方について、本人、家族の希望や意向、医師や看護師の意見を反映するように努めている。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った事柄や、気づき等を介護記録に個別に記録、日々の様子や変化、気づきを、申し送りにて職員間で情報の共有しながら実践し、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	函館市内に同一法人の施設が多種あり、その時々生まれる入所者様の状況やニーズに多方面に渡って対応できる、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の必要に応じて、民生委員や福祉事務所、行政等と連携を取り支援している。又毎月運営推進会議を開催し自治会や消防、地域包括支援センター等の参加をいただき、行事等の企画への参加により地域との交流を持てるように支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、家族の希望のかかりつけ医と常に連携を取り通院や往診の介助を行っており、信頼関係を築きながらいつでも相談できる体制を整え日々適切な医療が受けられるように支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、医師や訪問看護師、歯科医等の往診・連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週医療連携看護師による健康管理が行われており、又入所者様の日々の健康状態の情報や、身体的な気づきを管理者に報告すると共に、医療連携看護師と24時間体制で相談、適切な指示を受ける事が出来る。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者への情報提供や御家族への連絡を密に取り、早期退院を目指し連携に努めると共に、遠方の御家族様と病院の中継役を努める等、病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケアの対応が出来るように看取り指針を立て、早い段階でのご本人や御家族の意向の聞き取りを行い、意向を踏まえた上で事業所としてできる事の説明をすると共に、主治医等地域との関係機関と話し合い、共にチームで支援に取り組んでいる。	現在、看取りを実践している。また、看取りの指針に基づき本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員参加で、施設内研修を開催、入所者様の急変時や事故に備え応急手当や初期対応のマニュアルを元に訓練を行い、実践力を身に付けている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行い、全職員や自治会、消防との連携、参加も頂き、災害時に昼夜問わず入所者様が安全に避難できる方法を身につけている。	次年度、スプリンクラーの設置を予定している。また、消防署の協力を得て、年2回の火災避難訓練の実施や火災報知器や通報装置等の設備の点検も実施している。町内会が火災避難訓練に参加し、地域との協力体制を築くよう努めている。	今後は、数多くの地域住民が参加できるように、さらに検討しているので、その実践に期待します。また、スプリンクラー設置後には、避難誘導方法や手順の見直しを再検討することを期待します。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人ひとり、ご自分の時間を過されるときや入浴のときなどは、特にプライバシーに配慮しており自尊心を傷つけないように言葉かけをしている。	身体拘束廃止委員会や接遇マナーの研修を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中でコミュニケーションをとりながら本人のご希望や思いを引き出せるような人間関係を構築している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様は自由な時間で、ご自分のペースにあわせ入浴や食事などをその日の気分できるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様がその日の気分や洋服選びやおしゃれが出来るように支援しており、2ヶ月に1回訪問美容室に来ていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューが決められておらず、入居者様の希望も取り入れ食事が楽しく召し上がれるようにしており、個々のできる事を見つけ準備・食器拭きなどを行っていたりしている。	食事が楽しみなものになるように、利用者の意向を把握してメニューが作られ、食材の調理や味見、盛り付けや後片付け等職員と一緒にしている。また、水分・食事摂取量を把握し、記録している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとり食事量や水分量を職員全体で把握しながら確認し、その時々にあわせ摂取していただく。職員に栄養士もいることから食事のバランスを確認している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけを行っており、ご自分で出来ない入居者様には職員がお手伝いしている。ご自分で歯磨き出来る方も随時確認し義歯洗浄するなどの支援を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しながら排泄の失敗を減らし自尊心を傷つけないようにトイレへご案内しトイレ排泄が出来るよう支援している。	職員間で話し合い共有の年間目標を立て、一人ひとりの力や生活習慣を活かして、排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の把握をし身体的・精神的に苦痛の無いよう食事のバランスや水分補給を行い便秘予防に努めている。排泄リズムの乱れがあるときには、医師や医療連携看護師に相談し指示を仰いでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日・時間を決めての入浴は行っておらずご本人の意思にあわせながら声かけを行い、入浴剤使用で気分的リラックスをしていただいている。機械浴も完備しており寝たきり入居者様にも対応できるようになっている。	入浴が楽しめるように特殊入浴設備を完備しており、状態に応じた対応が可能となっている。また、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援し、入浴を望まない利用者にも柔軟な支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣は個々のペースに合わせてながら昼夜が逆転しないよう、生活リズムを把握しながらその時々に合わせて休息をとっていただく。就寝、起床もご本人の希望にあわせながら支援を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師の指示・薬剤情報などにより入居者様一人ひとりの薬の内容・服薬方法の把握に努めており、状況の変化があった際には速やかに医師・看護師に連絡して相談し対応している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、ご自分のできる事の達成感を得ていただき、つぎの介護計画につながるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>入居者様の希望と季節にあった外出をしている。その地域で旬のものを食べたり、イベントにも参加し時には御家族様も一緒に出かけいただきコミュニケーションを図っていただいている。</p>	<p>一人ひとりのその日の希望にそって、散歩や買い物、お祭り見物やドライブ等戸外に多く出かけられるように支援している。また、家族と一緒にホテルでの外食や馴染みの美容室の利用、散歩や買い物等支援している。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご本人の希望で買い物へ出かけたいときなどはご自分で財布の残金を確認し好きなものを購入していただく。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>定期的にご家族様・ご友人へご本人の写真入りで連絡をしており、電話で声のやり取りができるように支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>施設の共用空間は十分にあり一人ひとりが自由に使用でき、他の刺激や混乱を受ける事のないよう配慮している。フロアーの窓に季節感を感じれるよう装飾をしている。</p>	<p>廊下、リビング等の共用空間は広く、観葉植物やひな祭り等の季節毎の飾りつけが行われていたり、思い思いに過ごせるようにソファや椅子、テーブルの配置を工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホール・食堂の共同スペースは入居者様が自由に好きな場所に移動し、その時々併せて利用できるように工夫をしている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には仏壇・ソファ・タンス等ご自宅にて生活され使用されていた家具等を持ち込み御家族の写真や以前より愛着のあるものを置きご本人が思い出しながら使用できるよう心がけている。</p>	<p>居室は、明るく広い。また、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者様一人ひとりができる事は把握してできる事を中心にお手伝いを行っていただき、わからないことの把握をすることで、失敗を防ぎ自信を持ってもらうことで不安感を取り除いていくことで混乱を防ぎ自立した生活を送っていただく。</p>		

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401763		
法人名	医療法人社団向仁会		
事業所名	医療法人社団向仁会グループホームよるこびの家日吉(柏ユニット)		
所在地	北海道函館市日吉町3丁目20番25号		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果市町村受理日	平成23年3月17日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171401763&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171401763&amp;SCD=320</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年2月23日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自由・笑顔・安心」と親しみがあり誰でもわかりやすい理念を掲げ、閑静な住宅街に位置しており近隣住民との関わりも持てる地域密着型のグループホームとなっています。又、委員会にも力を入れており、身体拘束廃止委員会、事故防止委員会をはじめ様々な委員会活動を行っている事でサービスの向上に取り組んでおります。当ホーム敷地内に畑もある事から夏には農作物の栽培も行っております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由・笑顔・安心」の3つの理念を掲げ、入居者様、御家族様、地域住民、職員全てに共有出来る親しみのある理念を実践している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に入居者様も毎回(数名)参加して頂き、地域の住民とのコミュニケーションの場として提供している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を主とし、外部での勉強会などを活かし町内会や近隣の住民より相談などがあつた際は都度支援している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度を目安とし年6回実施している。会議には町会、包括職員、保健所職員、入居者様御家族など外部の方も参加して頂いており様々なテーマをもとに意見交換を行っている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は現在運営推進会議が主だが市町村主催の研修や講演会への参加を通じ協力関係を築いている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で「身体拘束廃止委員会」を設置しており、職員一人ひとりが身体拘束の定義を理解し常日頃から身体拘束の無いケアに努めている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営推進会議にて「身体拘束・虐待」をテーマとして取り上げ管理者・職員に意識付けを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については以前、運営推進会議にて2度取り上げている。現在、活用する機会がないが、今後必要となる場合に備え新人スタッフも含め再度このテーマを取り入れ勉強していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約(入退居)に関しては現在管理者が全て担っている。御家族様が安心して契約出来るよう十分な説明を行い理解・納得を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置し当ホームに関する意見や苦情を集めそれらをスタッフ会議や運営推進会議を通し反映している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にスタッフ会議を開催し職員からの意見を汲み取っている。そこでの希望や意見など法人の本部へ伝え出来る限り反映に努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常日頃から勤務状況には目を配り把握している。又、そこから業務に対する実績により評価をする事で昇給や昇格へ反映している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修は多々あるものの業務時間内での研修が数少なく時間外での研修となり参加が難しくまだまだ満足のいく取り組みができていない状態にある。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道GH協議会や南北海道GH協議会・同協議会ブロック会議などを通し様々な勉強会に参加し、特にブロック会議では近隣のGHとの交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込みを頂いた時点で本人様にお会いし話を聞き、入居にあたり不安が少しでも軽減出来るようお手伝いさせて頂いている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至る前に必ずご本人様はもちろん御家族様からの要望を訪問にて直接伺い安心して入居ご利用して頂ける様努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームへの入居申込みがあった時点で、その方の簡易な情報を聞き出すことでGH利用に適するのかが否か判定会議を通し見極め情報提供を行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ一人ひとりが入居者様を「一人の人間として敬う」を念頭に置き人生の大先輩として教えられること、気付かせられる事を通じお互い支え合って生活していける環境を築いている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護計画を主に御家族様の思いや意見を聞き、職員 本人 御家族様が関係を共有することで互いに支え合っている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際に最も重視している部分でもあり、環境変化に伴うダメージを出来るだけ軽減出来るよう努めている。今まで慣れ親しんだ物・場所・外部との関わりなど途切れないよう支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	適時に職員が入居者様同士の間に入り入居者様同士の趣味や話題を見出し些細な事でも関わりを持って頂けるよう支援する事で孤立する事無く支えあった生活が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居(契約終了)が決まった時点でその後の必要とされる支援を見出し他施設や病院などサービスに対するフォローを必要時には行っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向に関してはケアプランを主とし把握、又、適時のカンファレンスを通じ検討、改善することで入居者様本人本位のケアに努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人様、御家族様より情報を聞き取りフェイスシートを作成しそれまでの生い立ちなど背景を探る事でケアプランへの反映、利用にあたっての経過に取り入れている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主にケアプランからの記録反映にて一人ひとりの生活状況、健康状態、精神面など職員間で把握の徹底を行っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成にあたり、カンファレンスを通じ職員間で意見を出し合い、御家族、主治医、看護師からも情報を収集、共有しケアマネージャー取りまとめ介護計画に反映させ取り組んでいる。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録の記載を基本とし、日々の様子や変化にも鋭く視点を向け記録を通しその人らしさが見える記録に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当ホームを含め市内に計4箇所のGHの設置、又、法人が介護老人保健施設であり、居宅介護支援事業所も設置されていることからGHでの対応に限らず様々なサービス、対応ができています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要性に応じ福祉事務所や市役所など各機関との連携を図り支援している。又、運営推進会議を通じ地域との協働を図っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様は一人ひとり個々のかかりつけ医をもっており、入居前からかかっていた医療機関や新たな医療機関を構築するなどその方に合った必要な医療を提供し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内で設置してある「住慶クリニック」より24時間体制で医療的な助言や指示を仰ぐ事ができる。又、週1回(毎火)に訪問され入居者様の健康状態の把握、管理を行っている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者一人ひとりがかかりつけ病院を持つことで、入院に至る場合のスムーズな連携、早期退院へ向けての情報交換、相談を行う事が出来ている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に至る前に御家族、医師、看護師との相談を行い医療的な治療の必要性や看取り指針での対応など早期に対応出来るよう努めている。			
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応、応急処置などに関する講習を消防職員により実施されており職員全体が把握している。又、マニュアルを作成することで新人職員への反映も出来ている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回必ず実施すると共に日中・夜間想定での訓練を行っている。又、近隣の町会の方々との協働も図っている。			
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への声掛けには日頃から特に気をつけており敬う気持ちを忘れず接している。又、記録の面では誰が見てもプライバシーに配慮した記載をしており誰が見ても差し支えの無い内容となっている。			
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりが職員誰に対してでも思い、希望を伝えられるよう日々働きかけている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にもあるように自由な生活をして頂く為に個々のペース、タイミングに合わせ出来る限り一人ひとりの希望に合った生活スタイルを支援している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感に合った服装、お洒落をして頂き容姿がだらしくならないよう一人ひとり配慮している。又、買い物などの際に御自分で服を選んで頂くなどその人の好みを重要視している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は基本的に職員で立てるが、季節に合わせた旬の物を取り入れたり、入居者様の嗜好に合わせた楽しい食事を提供している。又、入居者様と一緒に食事の準備をする事で家庭的な雰囲気を大切にしている。			
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量、栄養バランスを考慮した献立や適時の水分補給を行う事で一人ひとりの栄養管理の徹底を行っている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前のうがいをを行い風邪予防に努めると共に毎食後は必ず歯磨きを行って頂き口腔ケアに努めている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気持ちの良い排泄をして頂く為に、一人でトイレへ行けない方については排尿パターンを把握し、羞恥心に配慮した声掛けにてトイレ誘導を行っている。			
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の周期を把握しリズムを崩さないよう食事、水分に配慮し便秘を起こさせない取り組みを行っている。特に食事には気を付けバランスの良い食事内容となっている。便秘の際には看護師への相談や下剤にて排便コントロールを行っている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間を決めた入浴を行っておらず、一人ひとりの希望に合わせて入浴を行っている。又、入居者様同士仲の良い関係同士は一緒に入浴して頂くなど入浴を通しコミュニケーションを図って頂いている。			
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床の時間は決まっておらず個々のリズムに合わせた対応を行っている。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の医師、看護師の指示、お薬情報などにより入居者様一人ひとりの薬の内容、服薬方法の把握をしており、状況の変化があった際には速やかに医師、看護師へ指示を仰ぎ対応を相談している。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を把握し、そこからその方に合った役割を見つけ介護計画に取り入れ残存能力を活かし出来る力を発揮して頂く事で楽しみに繋げている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々、散歩や買い物、近隣へのドライブなど希望に沿った外出を行っている。リフトアップ付きの公用車もある事から車椅子の方でも気軽に外出することが可能となっている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては全て職員での管理となっています。買い物時などにその場で本人様にお金を手渡し自分でお金を店員に渡し買い物の雰囲気を楽しんで頂くなどの支援、配慮を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状の送付や御家族、ご友人との電話のやり取りは日常的に行われている。好きな時に連絡を取れるようになっている。又、1階に公衆電話も設置しており誰でも気兼ねなく外部との連絡をとる事が出来る。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には植木や花が飾られております。又、車椅子での楽に移動できるスペースが確保されており安全な環境となっております。花に関しては季節によって様々な花を飾っております。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを設置しており誰でも気軽に座る事ができ、そこで茶話会や昼寝などゆったりとくつろげる空間となっております。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人様の慣れ親しんだ家具等を設置させて頂き少しでも慣れ親しんだ環境に近づけるよう配慮している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る事、出来ない事、理解出来る事、出来ない事を把握し一人ひとりのレベルに合った安全な生活を提供している。		

## 目標達成計画

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	保健所、包括、町会職員の参加率は良いが地域住民、御家族様の参加率が悪い。	今後は地域住民への参加声掛け、御家族様にも極力多く参加して頂ける様来年度は積極的に働きかけていきたい。又、地域住民、御家族様より知りたい事や心配な事など小さな事でも議題とし提供して頂き取り組んでいきたい。	地域住民の方々には運営推進会議の案内の配布やポスターの掲示、御家族様には面会時などでの積極的な働きかけなど実践していきたい。又、御家族様、地域の方のご都合の良い時間帯や曜日の設定を行っていきたい。	1年
2	13	法人内外での研修や勉強会など数多く実施されているが、業務時間外での研修が多く主婦の方も多く都合によりあまり参加できていない状態にある。	業務時間内や休日を利用した研修などに少しずつ参加していけるように働きかけていきたい。又、管理者が積極的に研修への参加をしそこから得たものを勉強会としてホームへ反映しホーム内勉強会を行っていきたい。	管理者もしくは管理者補佐、ケアマネージャーが率先して研修に参加しホーム内の勉強会に活かしていく。又、職員1名でも研修へ参加した場合はそこから学んだものを勉強会として情報を共有していきたい。	1年
3	35	避難訓練は年2回必ず実施しており、町会などの協力も得ているが、地域住民の参加が無い。	年2回の訓練の内1回でも地域住民の方々に参加して頂き地域密着をさらに強めていきたい。	訓練の必要性、重要性を働きかけまずは見学からして頂き、そこから訓練への参加へと繋げていきたい。	半年
4	49	外出(外食や買い物、行事など)を現状よりもさらに増やし活動的な取り組みが必要。	全員での参加(行事)はもちろんの事、個別での外出対応を増やしていき1対1で対応する機会を増やしていきたい。	スタッフの人員増加や業務改善、入居者様のADLの向上にさらに努める。又、御家族様の協力も得ていく事でさらに円滑な外出ができるように取り組んでいく。	1年
5	40	現在は、職員が全て献立を考えており、入居者様と一緒にメニューを考える事が少ない。	献立作成から買い物、調理まで一連の作業を職員、入居者様で行っていく事で日常生活にさらに活気を出していきたい。	献立作成から始め、週1回の買出し時に入居者様をお連れし買出しの雰囲気を感じて頂く。買い物担当、調理担当など役割的なものも考えていく。	1年

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。